

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木祖村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくりに関する事案	野生鳥獣対策緩衝帯整備事業
事業費 1,830,400 円 (うち支援金: 701,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林と農地に挟まれた村道奥木曾 1 号線沿いであり広域的な森林施業は困難であり小規模ではあるが景観整備や有害獣の対策が必要な地域である。また、諸木原地区では、有害獣による畑への被害や住居周辺でのイノシシ等による掘り起こし被害が起きている。

(2) 本事業の目的

加害獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 カ年計画に基づき、今年度は諸木原地区において 4.06ha を整備した。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 木祖村大字小木曾 諸木原地区

(2) 対象者 諸木原地区の住民及び耕作者

(3) 実施方法 刈払機を用いた低木の除去

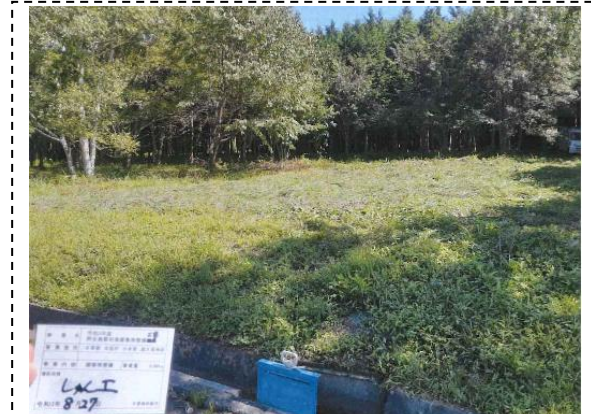
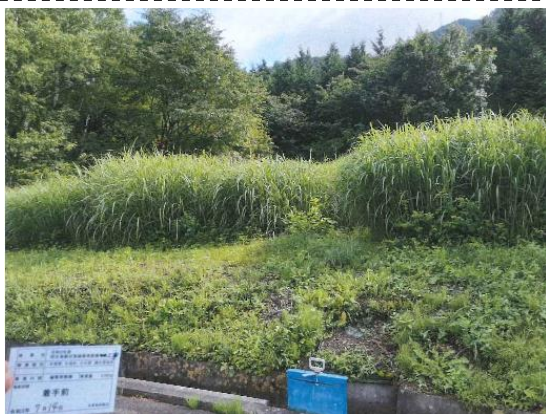
(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)

緩衝帯整備 35ha

②令和 3 年度実績

緩衝帯整備 4.06ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

加害獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

平成24年度から緩衝帯整備に着手し、効果検証を継続しながら対策を進めており、継続性は見込まれる。

(3) 普及性

地域住民に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

この地区は山からすぐの距離に集落と農地が存在し、農業被害や鳥獣被害の多い地区であった。近隣でサル・イノシシの出没が多く、地域住民や農家が日常生活に不安のある日々を過ごしていた。今回緩衝帯整備を実施したことにより、野生鳥獣が身を隠せなくなり集落・農地周辺への出没を抑制し、人身被害や農業被害を未然に防ぎ、減らすことが期待できる。

(2) 課題

数年のうちに事業実施前の姿に戻ってしまうことが懸念されるため、地域住民による継続的な維持整備が必要となる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

鳥獣による被害に対し防除効果が高く見込まれるため今後も事業を継続実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)